



2020年度第二四半期

化学の力で未来を今日にする

ZEON

決算報告

日本ゼオン株式会社

2020年10月30日

■ 2020年度Q2決算の総括	P.2
■ 同 各事業分野の景況感	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度通期業績予想	P.24
■ 2020年度下期の対応	P.25

長引く米中貿易摩擦、感染の拡大が続く新型コロナウイルスによる世界経済悪化の影響を受け、前年同期に対して減収減益という厳しい結果。新型コロナウイルスによる調達・生産への影響はなし。

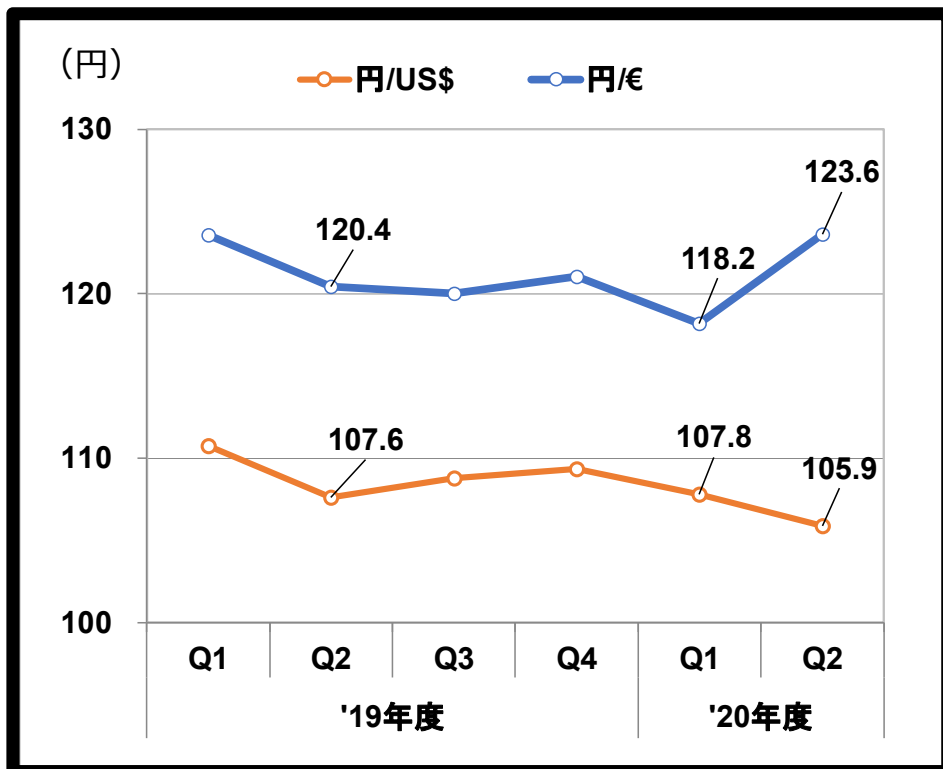
エラストマー素材事業：主原料価格は底を打った一方で、用途毎に濃淡あるも自動車産業向けや一般工業品用途向けの需要は依然弱含み、市況回復の足取りは重い。

高機能材料事業：高機能ケミカル関連ではEV用途向けの電池材料の荷動きが依然として鈍い。化学品はQ1横ばい。高機能樹脂関連では光学フィルムが堅調に推移し、中小型・大型用途向けともに前年同期の出荷量を上回った。

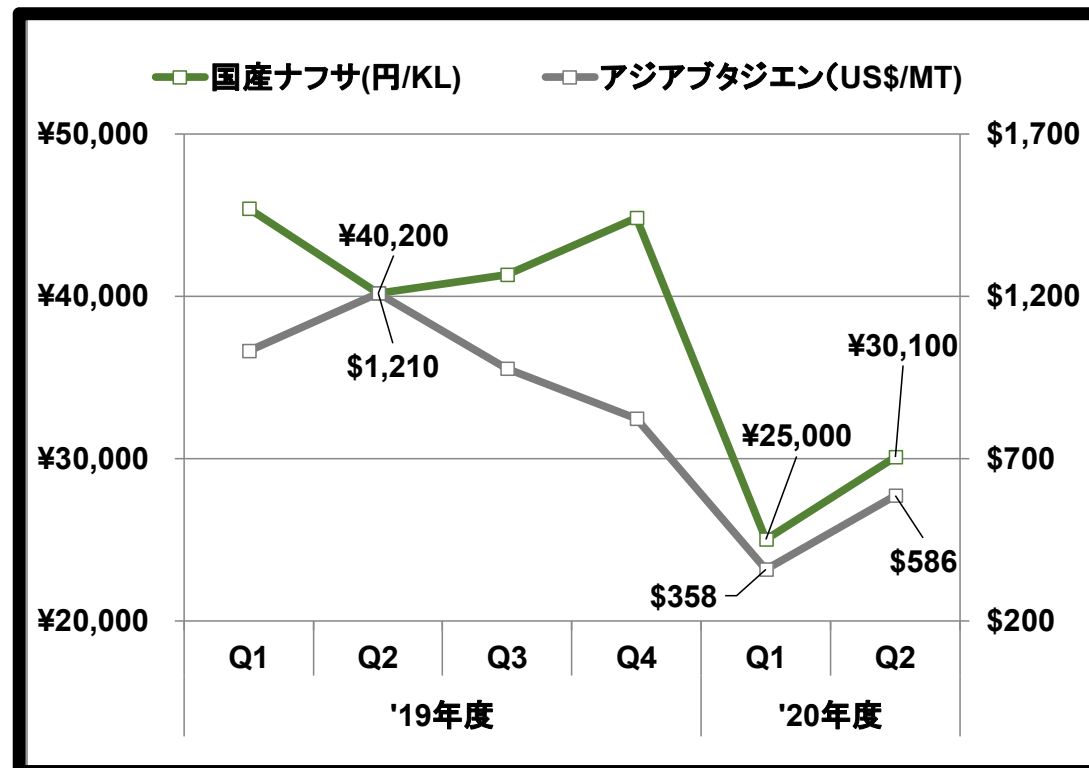
各事業分野の景況感（対前年同期、前期との比較）

セグメント	事業分野	YoY	QoQ	QoQ概況（20/Q1と比較した景況感）	
エラストマー素材	合成ゴム	↓	→	タイヤ向けは戻りつつあるも、特殊ゴムの回復足取り重い	
	ラテックス	↑	→	医療・衛生用手袋向け堅調、一般工業品用途向けは依然として低調	
	化成品	→	→	需要は底堅いが市況は弱含み	
高機能材料	高機能ケミカル	化学品	↑	→	家庭用洗剤、サニタリー用途向け等の需要堅調
		電子材料	↑	→	半導体用途向け需要は横ばい
		トナー	↓	→	オフィス・ホームプリント需要は依然として低調
		電池材料	↓	↑	EV販売台数は復調の兆し、民生他用途向けは堅調
	高機能樹脂	光学樹脂	↑	→	光学用途、医療用途向けともに堅調
		光学フィルム	↑	↑	中小型、大型向けともに堅調

【為替推移】



【主原料推移】



		2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥107.6	¥107.8	¥105.9	△2%	△2%
	円/€	¥120.4	¥118.2	¥123.6	+0%	+5%
主原料	国産ナフサ/KL	¥40,200	¥25,000	¥30,100	△25%	+20%
	アジアブタジエン/MT	\$1,210	\$358	\$586	△52%	+64%

(単位：億円)	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	前年同期	今期	対前年同期
	2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	2019年度 上期	2020年度 上期	YoY 増減
売上高	809	695	679	△130	△16	1,634	1,374	△259
営業利益	67	43	56	△11	+13	150	99	△51
経常利益	74	51	59	△15	+8	160	109	△51
当期純利益	55	36	46	△9	+10	116	82	△34

- 米中貿易摩擦、新型コロナウイルス感染拡大による世界経済悪化の影響を受け、売上高は対前年同期130億円の減収、営業利益は11億円の減益。
- 前期（2020年度Q1）との比較において、売上高は16億円の減収、営業利益は13億円の増益。
- 上期累計の売上高は、対前年同期259億円の減収、営業利益は51億円の減益。

注記：海外関係会社の2020年4～6月実績がQ2連結決算に反映されています。

2020年度Q2 業績サマリー (セグメント別)

(単位：億円)

【売上高】

	2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	2019年度 上期	2020年度 上期	YoY 増減
エラストマー素材	448	371	342	△106	△29	919	713	△ 206
高機能材料	232	223	242	+10	+19	455	465	10
その他の事業、消去等	129	100	96	△33	△4	260	196	△ 64
売上高合計	809	695	679	△130	△16	1,634	1,374	△ 259

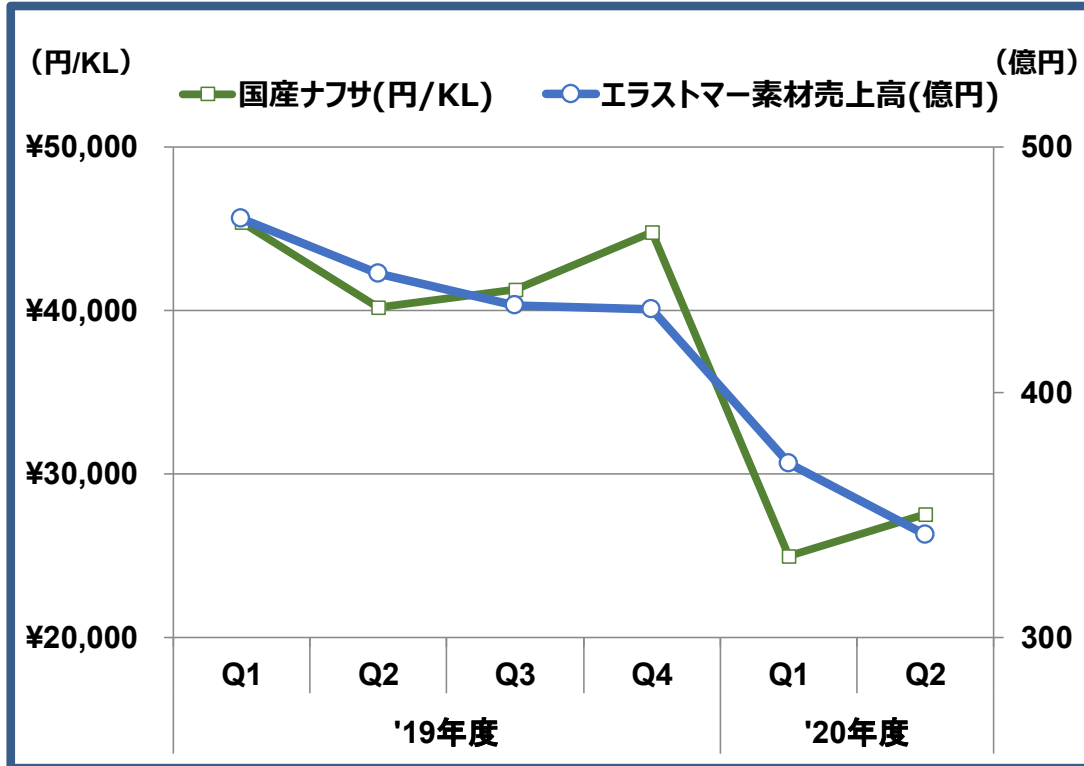
【営業利益】

	2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	2019年度 上期	2020年度 上期	YoY 増減
エラストマー素材	25	△ 1	9	△16	+11	60	8	△ 51
高機能材料	41	48	49	+8	+1	92	97	5
その他の事業、消去等	1	△ 4	△ 3	△4	+1	△ 1	△ 7	△ 6
営業利益合計	67	43	56	△11	+13	150	99	△ 51

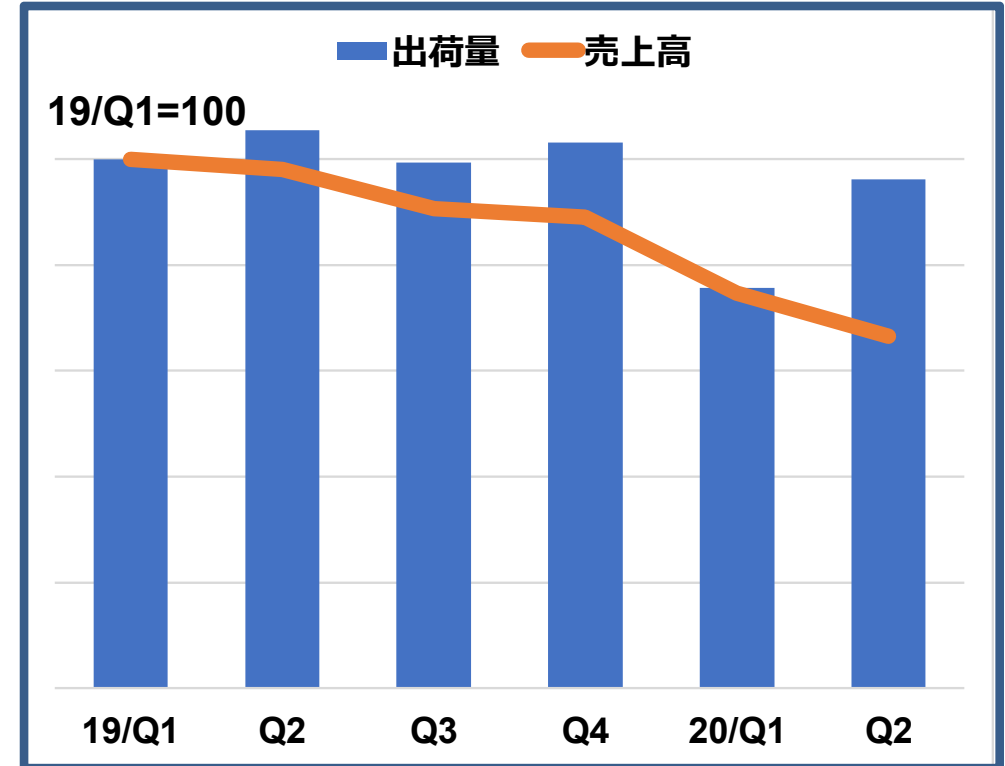
- エラストマー素材：YoYは減収減益、QoQでは減収増益。
原料価格下落等の理由で営業利益は増加。
- 高機能材料：YoY、QoQともに増収増益。
四半期決算としては過去最高益。

■ 2020年度Q2決算の総括	P.2
■ 同 各事業分野の景況感	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度通期業績予想	P.24
■ 2020年度下期の対応	P.25

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量と売上高推移 (※)】



(※) 19/Q1の出荷量・売上高を100とした場合の指数

- 国産ナフサ価格はQ2に上昇したが、売上高への波及は極めて限定的。
- 主にタイヤ用途向けの汎用ゴムは回復の兆しを見せるも、自動車産業および一般工業品用途向けの特殊ゴムの市況回復の足取りは重い。

(単位：億円)	2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (千トン)	150	128	146	△ 4	△ 3 %	18	14 %
合成ゴム	90	65	82	△ 8	△ 9 %	17	27 %
ラテックス	31	28	31	0	1 %	3	12 %
化成品	30	35	33	3	8 %	△ 3	△ 8 %
売上高	448	371	342	△ 106	△ 24 %	△ 29	△ 8 %
合成ゴム	321	245	218	△ 103	△ 32 %	△ 27	△ 11 %
ラテックス	42	33	32	△ 10	△ 24 %	△ 1	△ 2 %
化成品	78	81	79	1	1 %	△ 2	△ 2 %
その他・消去	7	13	13				
営業利益	25	△ 1	9	△ 16	△ 63 %	11	
営業利益率	5%	0%	3%				

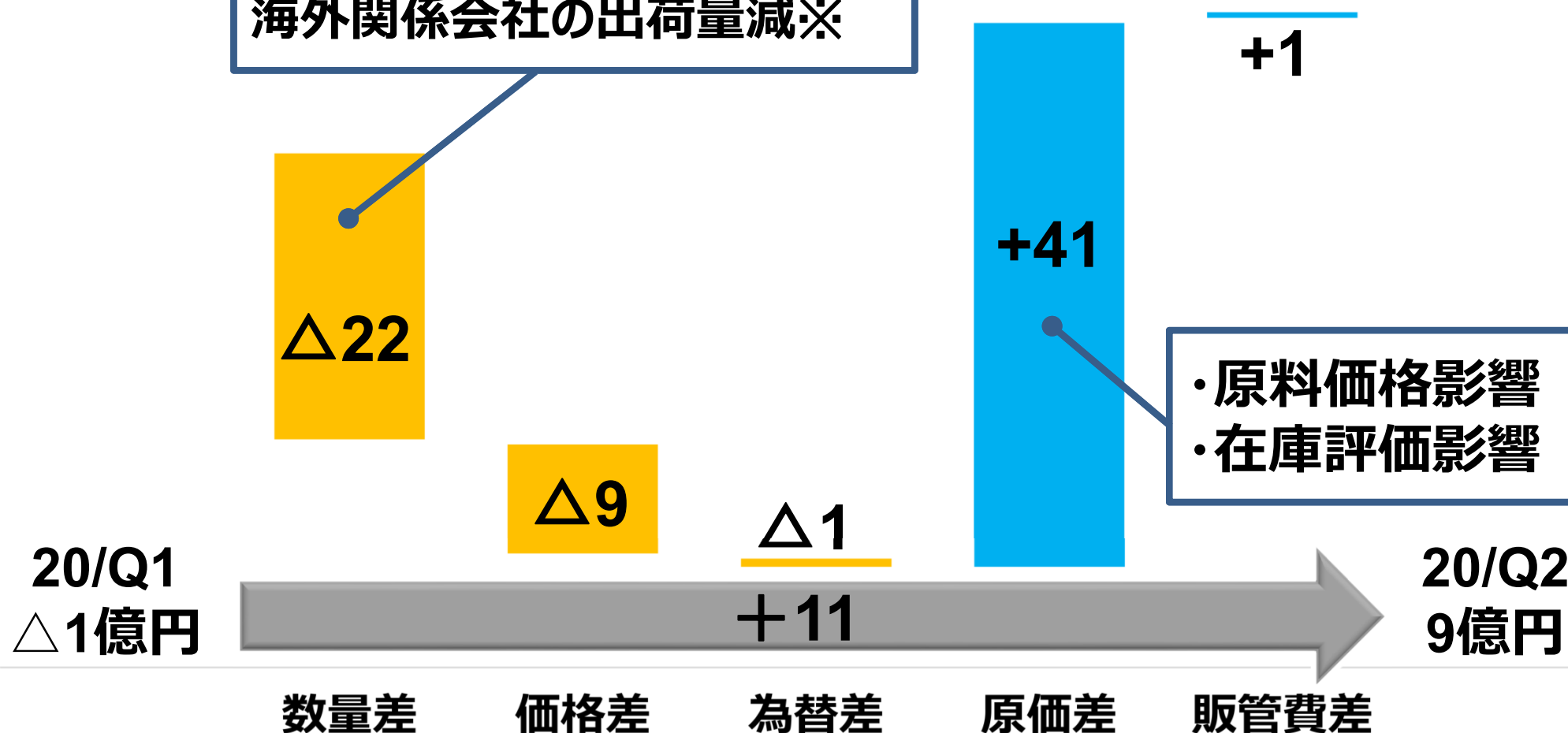
- 合成ゴム：QoQで出荷量は改善するも売上高は減少。
- ラテックス、化成品：出荷量・売上高ともほぼQ1横ばい。出荷量は前年同期並み。

エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)

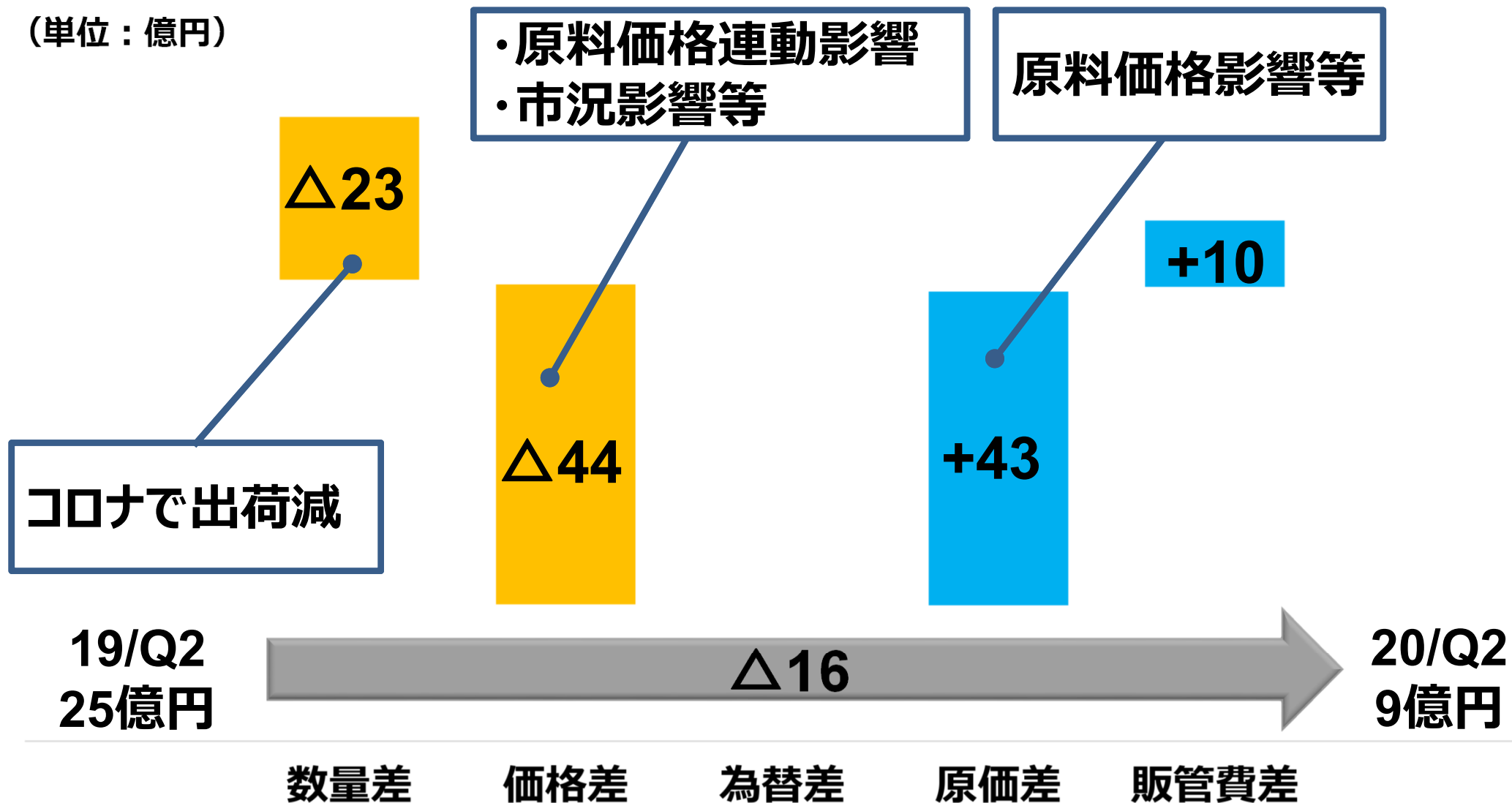
新型コロナウイルスの影響による
海外関係会社の出荷量減※

※海外関係会社の2020年4～6月実績が
Q2連結決算に反映されています。



エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



■ 2020年度Q2決算の総括	P.2
■ 同 各事業分野の景況感	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度通期業績予想	P.24
■ 2020年度下期の対応	P.25

(単位：億円)	2019年度 Q2	2020年度 Q1	2020年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	232	223	242	10	4 %	19	9 %
高機能ケミカル	75	70	67	△ 8	△ 11 %	△ 3	△ 5 %
高機能樹脂	143	141	163	20	14 %	22	16 %
メディカル他	14	12	12	△ 2	△ 17 %	△ 0	△ 2 %
営業利益	41	48	49	8	20 %	1	2 %
営業利益率	18%	22%	20%				

■ 高機能ケミカル関連

電池材料の荷動きは未だ鈍い。トナーは新型コロナウイルスの影響等で需要が減少、化学品はQ1ほぼ横ばいで高機能ケミカル全体では減収。

■ 高機能樹脂関連

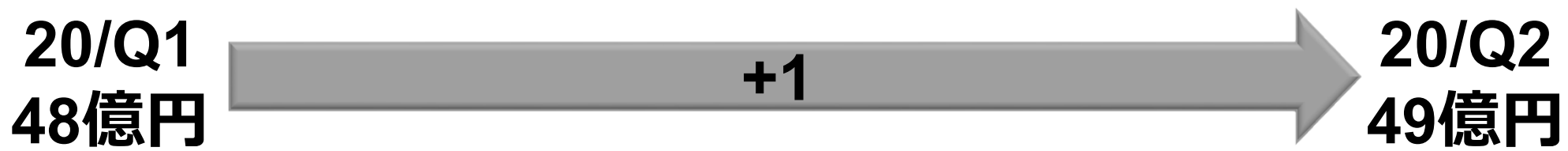
光学フィルムが堅調で、高機能樹脂全体では増収。

(単位：億円)

出荷量増

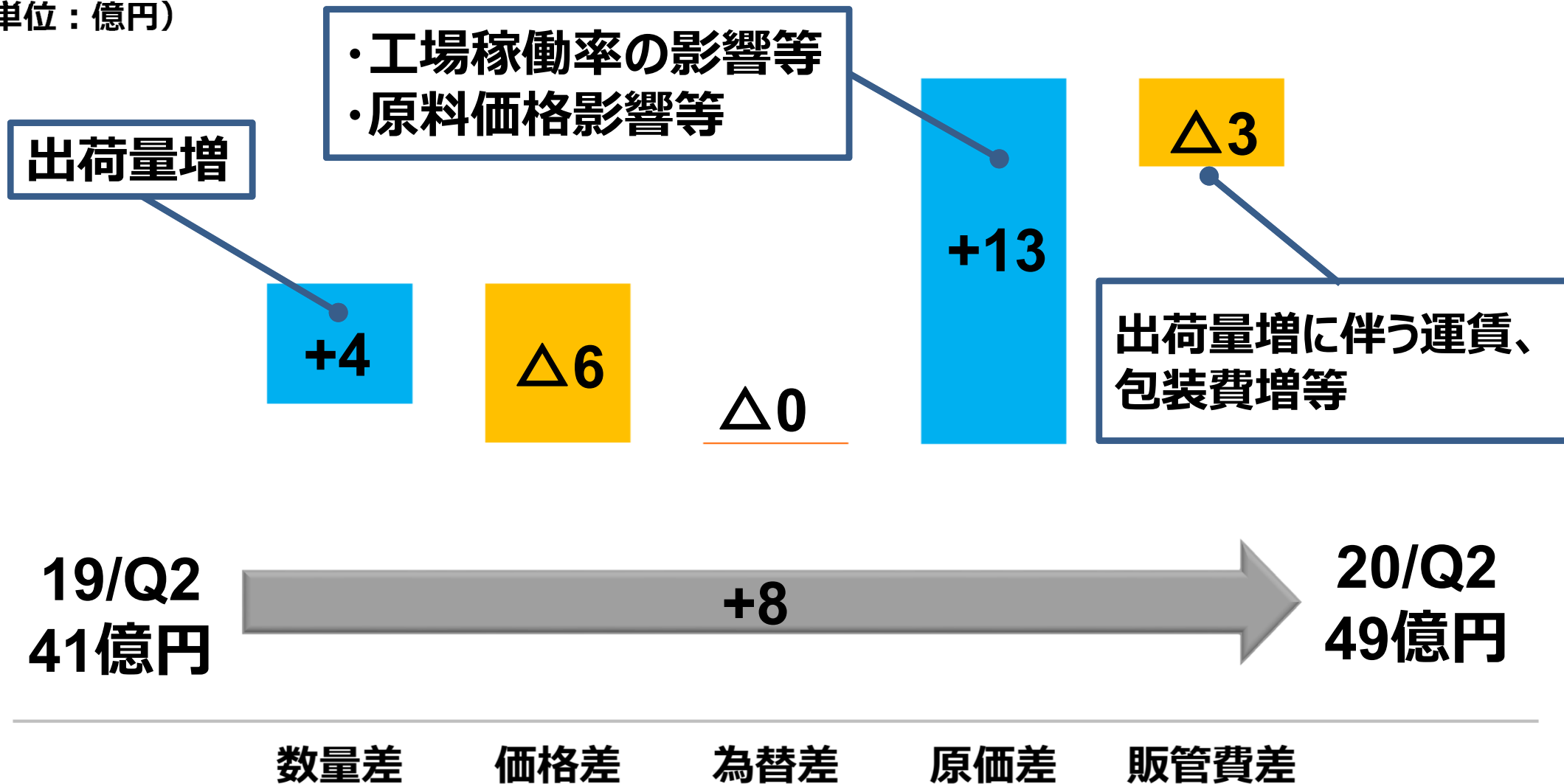
・工場稼働率の影響等
・原料価格影響等

・光学フィルムの開発試作関連費増加
・出荷量増に伴う運賃、包装費増等



数量差 価格差 為替差 原価差 販管費差

(単位：億円)



高機能材料事業の状況：電池材料の状況（出荷量） ZEON

参考：電池材料は高機能ケミカルに属します

	YoY	QoQ
EV向け	78%	92%
うち中国向け	164%	98%
民生他向け	105%	119%
全体	88%	102%

■ EV向け

完成車需要は回復してきているが、サプライチェーンに滞留していた在庫消化に、欧州における自製化の動きが重なり荷動きは鈍い。

■ 民生他向け

テレワークを背景としたモバイル端末向け用途、家庭用クリーナー等のパワーツール向け用途が堅調。産業用途（ESS）も落ち込みなく推移。

高機能材料事業の状況：光学樹脂の状況（出荷量） ZEON

参考：光学樹脂は高機能樹脂に属します

	YoY	QoQ
光学用途	99%	110%
医療、その他	89%	67%
全体	93%	79%

■ 光学用途向け

21年7月完工に向けた能力増強工事、同年に計画されている定期検査期間の生産停止に向けて出荷量を調整。需要は堅調。

■ 医療、その他用途向け

現地在庫との兼ね合いで短期的に前期を下回るも、医療用途向けは堅調、光学用途同様、供給はタイトな状況。

高機能材料事業の状況：光学フィルムの状況（出荷量）ZEON

参考：光学フィルムは高機能樹脂に属します

	YoY	QoQ
中小型向け	127%	128%
大型向け	109%	109%
全体	113%	114%

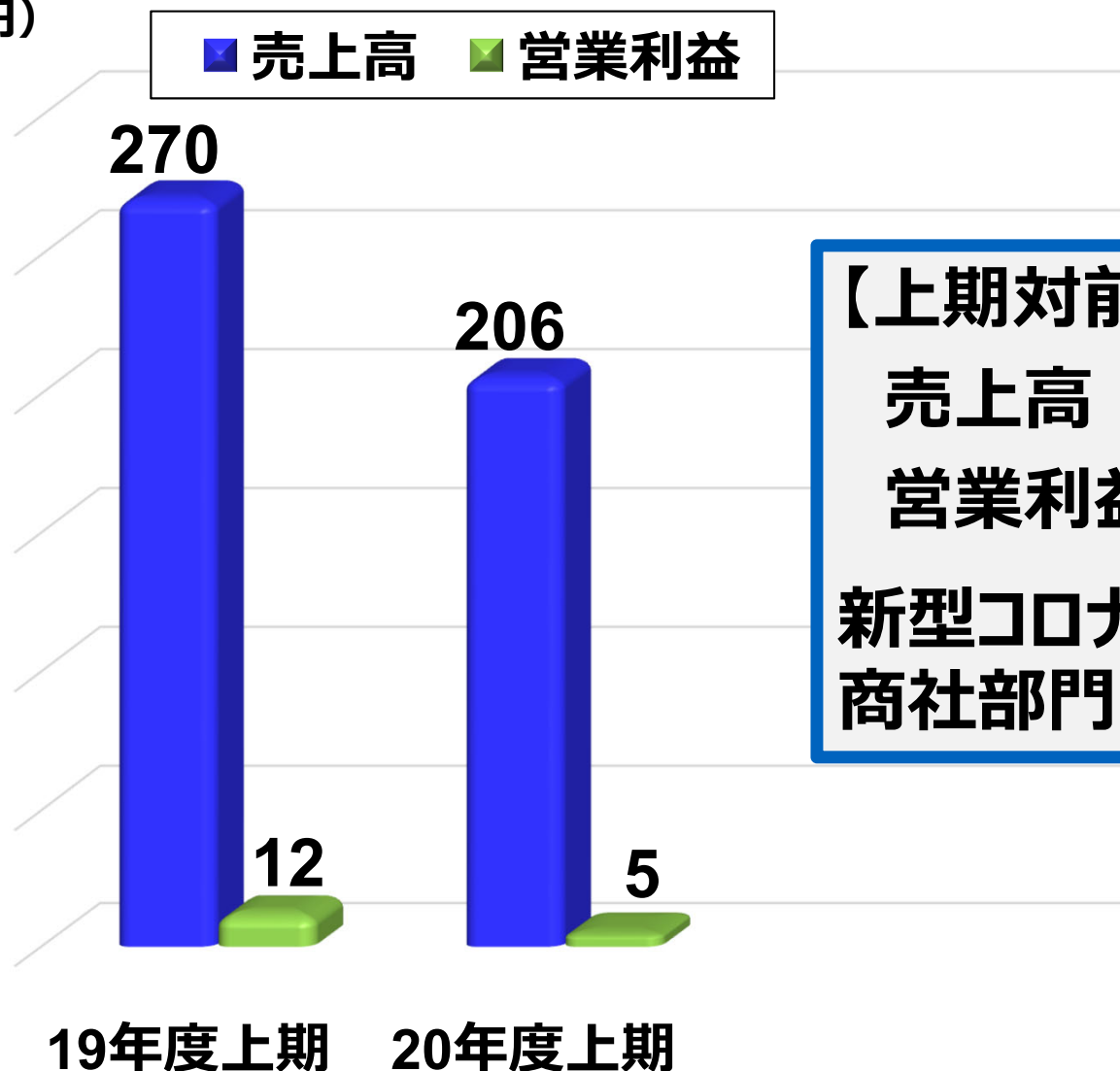
■ 中小型向け

テレワークを背景としたモバイル端末向けの需要が引き続き堅調に推移。

■ 大型向け

東京オリンピック、パラリンピック延期による需要減を折り込むも、コロナによる巣ごもり需要に加え、中国市場向けが伸びて出荷量は前年を上回る。

(単位：億円)



【上期対前年同期比】

売上高 : Δ 64億円

営業利益 : Δ 7億円

新型コロナウイルスの影響で
商社部門、RIM事業が落ち込み

■ 2020年度Q2決算の総括	P.2
■ 同 各事業分野の景況感	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度通期業績予想	P.24
■ 2020年度下期の対応	P.25

総資産3,953億円 (△98億円)

【流動資産】 △156億円

◆ 現預金 +34億円

◆ 売掛債権 △113億円

【流動負債】 △186億円

◆ 買入債務 △150億円

流動資産

1,989

(△156)

流動負債

938

(△186)

固定負債 316 (△8)

純資産

2,699

(+95)

固定資産

1,965

(+58)

流動比率：212%

手元流動性：1.5カ月

【固定資産】 +58億円

◆ 資本的支出 +86億円

◆ 減価償却費 △78億円

◆ 投資有価証券 +56億円

【純資産】 +95億円

◆ 純利益 +82億円

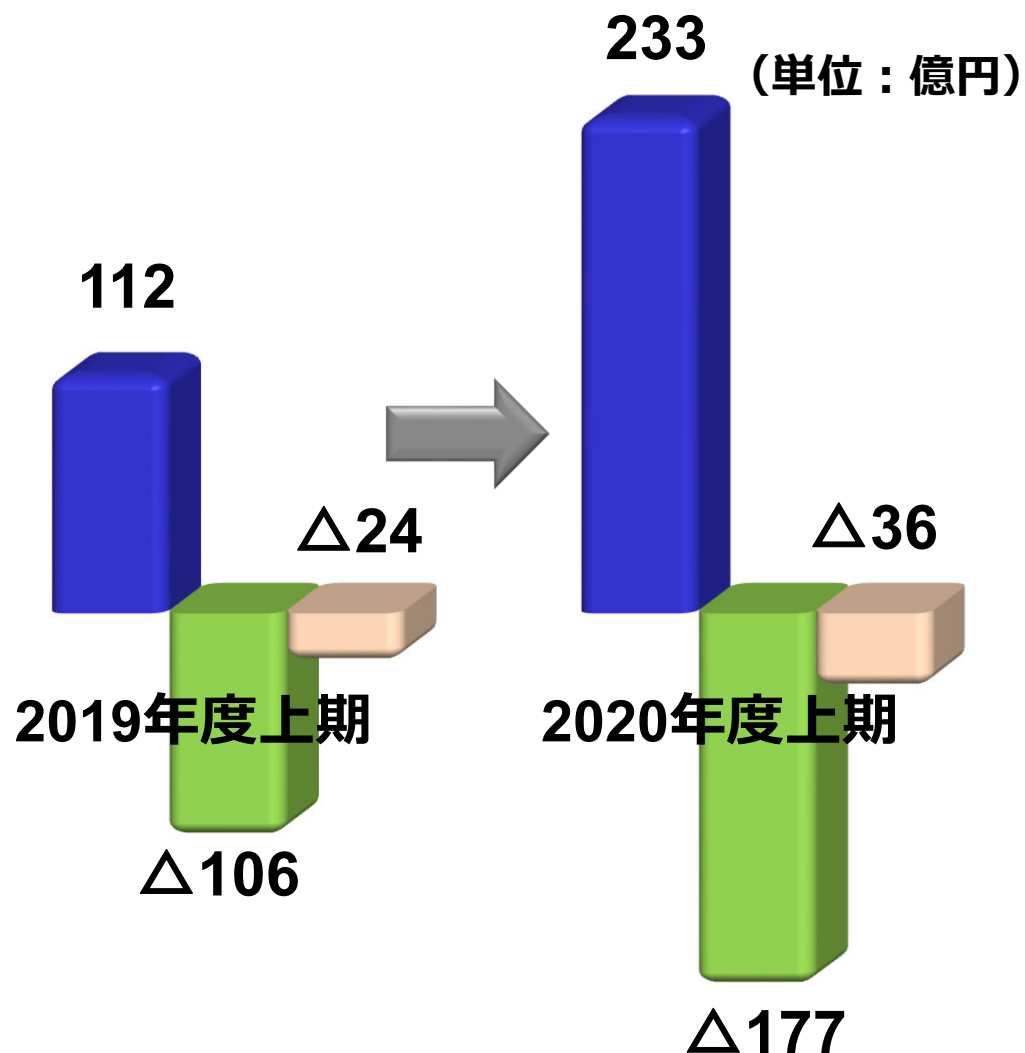
利益剰余金 +68億円

◆ 財務指標

・有利子負債 210億円 (-)

・自己資本比率 67.5% (+4.0%)

・D/Eレシオ 0.08 (-)



	2019年度上期	2020年度上期
営業CF	112	233
投資CF	△106	△177
フリーCF	5	56
財務CF	△24	△36
CF	△18	20

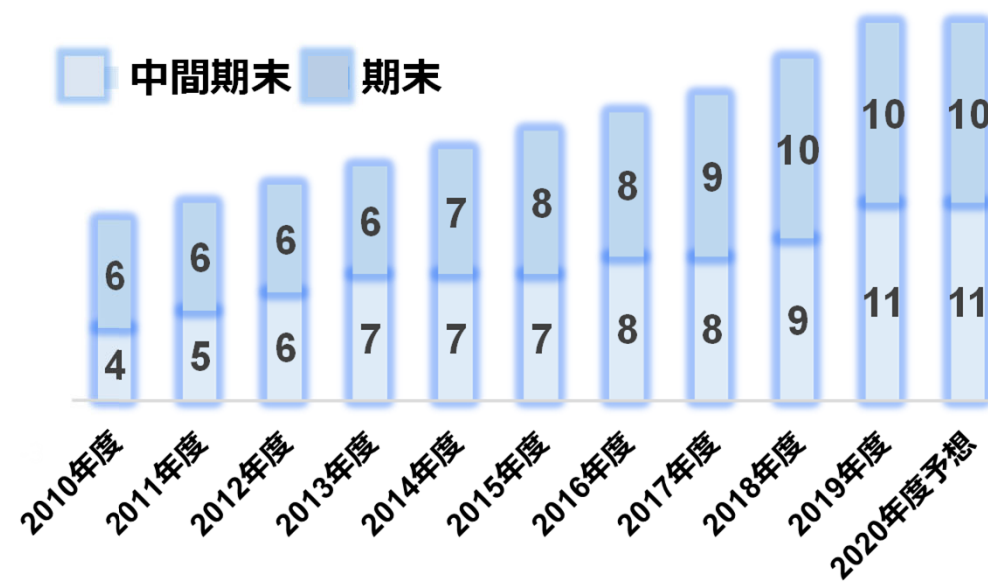
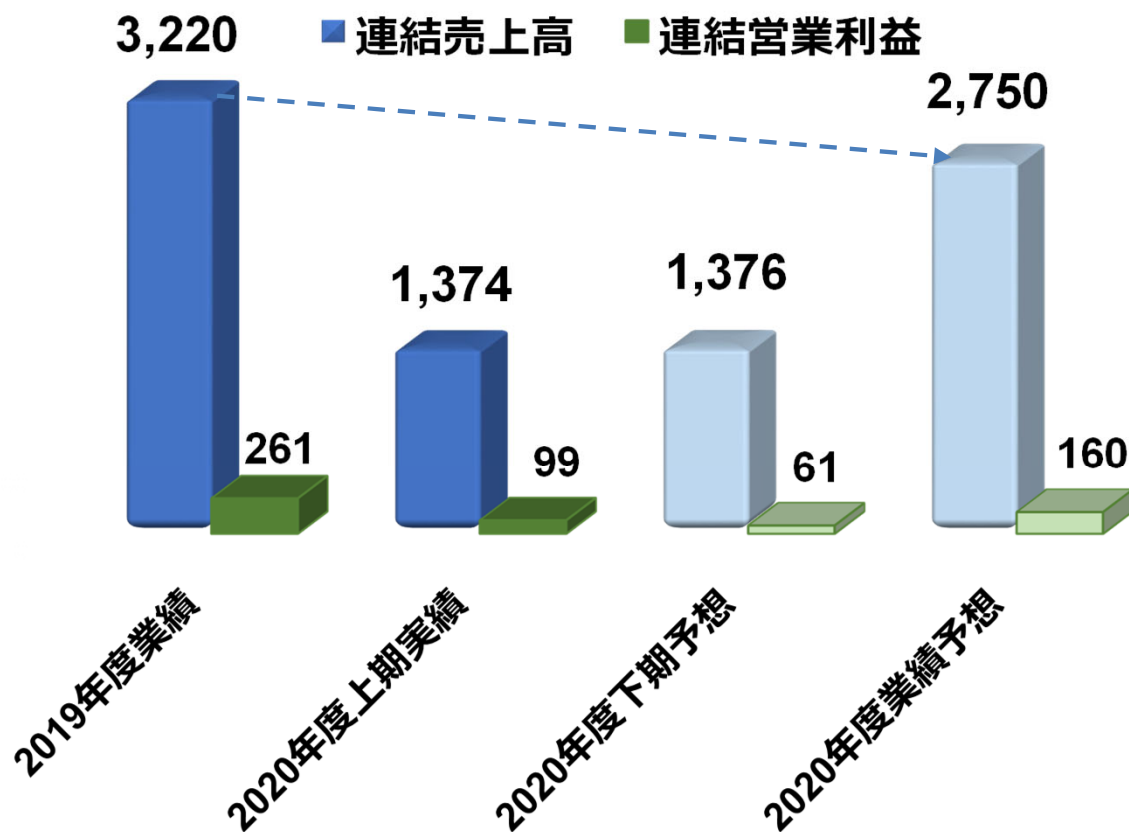
- ◆ 営業CF : +121億円
 運転資金 +64億円
- ◆ 投資CF : △71億円
 光学フィルム設備投資増等 △62億円
- ◆ 財務CF : △12億円

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

■ 2020年度Q2決算の総括	P.2
■ 同 各事業分野の景況感	P.3
■ 同 事業環境（為替・主原料）	P.4
■ 同 業績サマリー	P.5
■ 同 P/Lの概要（セグメント別）	
● エラストマー素材	P.8
● 高機能材料	P.13
● その他	P.19
■ 同 B/Sの概要	P.21
■ 同 C/Fの概要	P.22
■ 2020年度通期業績予想	P.24
■ 2020年度下期の対応	P.25

【売上高・営業利益予想】（単位：億円）

【配当金予想】（単位：円）



- 2020年度通期業績は、売上高2,750億円、営業利益160億円と予想。
- 2020年度の配当金は、中間期末11円、期末10円の21円を予想。
(対前年実績±0円)

新型コロナウイルスの感染二次拡大や米中関係の緊迫化等、世界経済をめぐる不安要因は拭えず、『緊急対策本部』が引き続き主体となり、不測の事態へ対応していく。

国内外全ての事業所、製造拠点において感染予防を徹底し、引き続きサプライチェーンの維持及び従業員やその家族等の健康・安全の確保に努める。

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。

実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2020年度 第3四半期決算
報告予定日**

2021年1月29日（金）

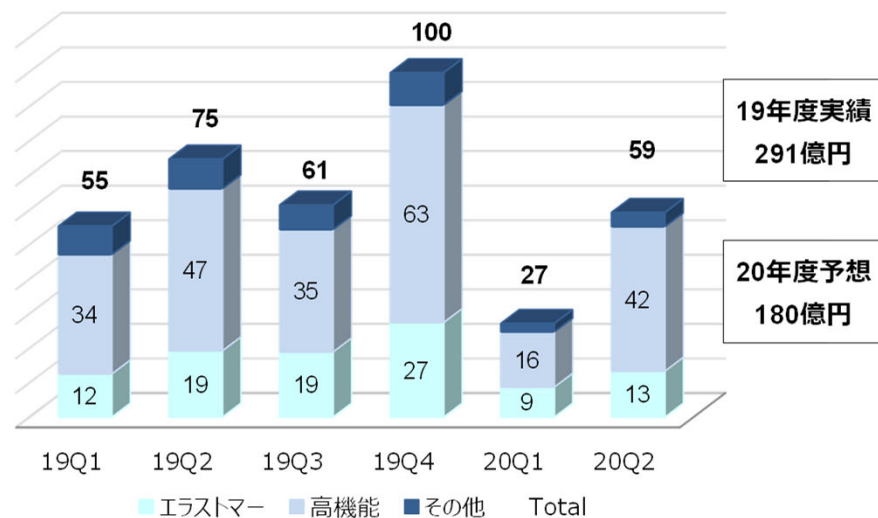
上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます。

ZEON

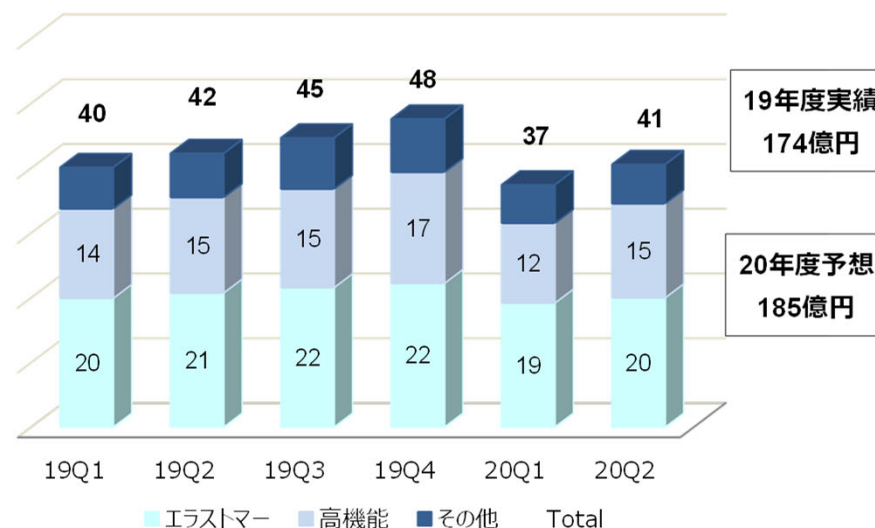
日本ゼオン株式会社

以 上

資本的支出 推移 (単位：億円)



減価償却費 推移(単位：億円)



研究開発費 推移(単位：億円)

